

分倍河原まちづくり年譜

分倍河原南口地域は、戦後木造平屋建ての社宅、木造2階建ての寮、保育所、銭湯、公園、プール、駐在所のある東芝社宅施設群の時代が長く続いた。鎌倉街道市川用水沿いの土地では砂利を採った穴があり、昭和30年代前半にはそこで盆踊りをやっていた。その後市道南側の部分はコンクリートブロック造2階建ての社宅が作られた。

- 1940年(昭和15年) 日本製鋼所操業開始
- 1941年(昭和16年) 東芝府中工場操業開始
- 1963年(昭和38年) サントリービール武蔵野工場操業開始
- 1964年(昭和39年) 日本電気府中事業所操業開始
- 1966年(昭和41年) 南武線全線複線化
- 1973年(昭和48年) 武蔵野線府中本町～新松戸間開業
- 1976年(昭和51年) 東芝社宅の解体整地(北側木造社宅)
- 1977年(昭和52年) 分倍河原南口開発工事、かえで通り、南口ロータリーの設置、片町公園は開発にともなう提供公園、自転車置き場併置
- 1978年(昭和53年) 跨線橋設置(53年1月竣工) ホーム延伸6両化、踏切閉鎖
- 1986年(昭和61年) 片町公園(936.5㎡) 都市計画公園化
- 1989年(平成元年) 日本製鋼所再開発
8月用途地域見直し、現状ABC棟部分近隣商業地域80/300DEP棟部分第二種住居専60/200を全面近隣商業地域80/300に変更
- 1990年(平成2年) 5月8日分倍河原南口開発計画に係るまちづくりに関する協定書(東芝、共同建物、府中市)
10月まちづくりニュース第1号住民意識調査、最初のアンケート
- 1991年(平成3年) 5月まちづくり懇話会住民意識調査報告
7月まちづくり準備会よびかけ
- 1992年(平成4年) 9月分倍河原まちづくり協議会発足
- 1995年(平成7年) 京王線ガード拡幅工事
- 1996年(平成8年) 10月まちづくり協議会から吉野市長に提案書提出、協議会終了
- 2002年(平成14年) 府中市都市計画マスタープラン策定
- 2003年(平成15年) 11月府中市地域まちづくり条例制定(8月に市議会協議会提案)
- 2006年(平成18年) 4月府中片町インベストメントによる土地利用構想届出
10月公聴会(6名)
- 2007年(平成19年) 分倍河原まちづくり連絡会結成
分倍河原駅周辺地域では平成4年から8年にかけて府中市役所の先導により住民参加の「分倍河原駅周辺地域まちづくり協議会」が開催され「提案書」が当時の吉野市長宛に提出されました。12年余を経た今日までに「提案書」に基づくまちづくりは進展が無い一方で、都市計画法改正による都市計画マスタープランの策定、地域別まちづくり方針の検討開始、駅南口の商業開発、西府駅の開業などが進行し、まちづくりの条件が変化して参りました。

分倍河原まちづくり連絡会は、旧「まちづくり協議会」の関係者が呼びかけ人となり、駅南口の商業開発についての公聴会公述人と商店会・自治会メンバー、地域の有志により平成19年に結成されました。駅南口の商業開発は、平成18年4月に計画が公表され、これによって交通状況や周辺環境に大きな変化が予想されました。まちづくり連絡会は、開発事業者との話し合いを契機として誕生しましたが、この話し合いは20回余を数え、既存樹木の保全や遺跡保存、買い物環境や地元商店との共存共栄策、交通渋滞と駅周辺に不足している駐車駐輪対策、多摩丘陵富士山眺望の確保、地域の安全安心など、たくさんの問題を考えてきました。そしてこれらの課題の多くが地域のまちづくり方針やルールに関連することから、都市計画や旧「まちづくり協議会」の取り組みに関心が広がり、共通の理解を図る必要性が生まれてきました。

2008年(平成20年) ミナノ起工式

6月～12月まちづくり勉強会:分倍河原まちづくり勉強会は、①12年前平成8年に「分倍河原駅周辺地区まちづくり協議会」によって作成された「分倍河原駅周辺地区まちづくり提案書」を増し刷りし、皆が目を通すことにより当時の到達点を確認すること、②そしてこの学習を通して変化しつつある周辺環境の中での分倍河原の新しいまちづくりを考えること、を目的として取組まれました。

2009年(平成21年) 3月ミナノ竣工オープン

1. まちづくり勉強会のまとめ(報告書抜粋)

(1) 勉強会の経過

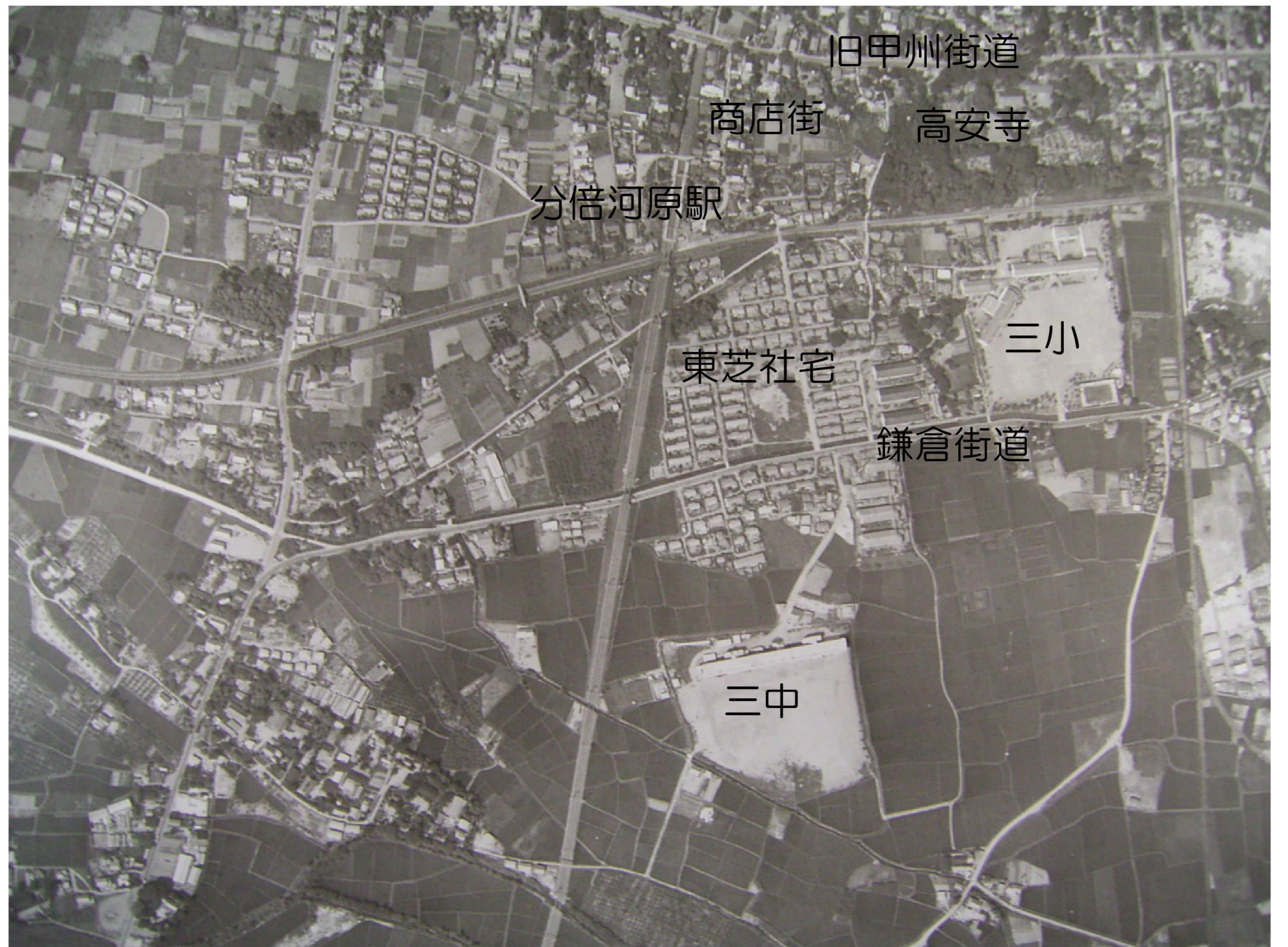
分倍河原まちづくり勉強会は平成20年6月26日に第1回を行い、平成20年12月にかけて6回開催されました。旧「まちづくり協議会」提案書は6月に増し刷りし、当時のコンサルタント担当者に毎回出席していただき、説明と助言をいただきました。

参加者は、旧まちづくり協議会が行なった現状把握と問題整理、鉄道とはけによって規定されている地域の性格を改めて確認しました。勉強会では旧まちづくり協議会の対象地域に対して、今日のまちづくり連絡会はこの範囲を対象地域とするのか、という議論に発展し、分倍河原駅を中心としたおよそ500m角の範囲を適当としながら駅利用者の方の参加も歓迎することとしました。

(2) 意見の概要

勉強会の議論の中で分倍河原のまちづくりについてのさまざまな意見が提出されました。意見は各人各様で皆が違うことを考えている、といった感強く持ちました。これだけ違う意見からまちづくりの方向性を探る作業は増えつつあります。これだけ違う意見からまちづくりの方向性を探る作業は増えつつあります。これだけ違う意見からまちづくりの方向性を探る作業は増えつつあります。これだけ違う意見からまちづくりの方向性を探る作業は増えつつあります。

① ハード型の意見:Aさんは共同住宅と店舗のあった再開発ビルの建設について計画書を作成し説明されました。Bさんは京王線の高架化と南武線の地下化による北側駅前広場と旧甲州街道からの取り付け道路計画を図面化されました。Cさんは改札口と南北道路のアイデアを説明しました。



1961年(昭和36年)の分倍河原航空写真

- ② ソフト型の意見:Dさんはまちづくり勉強会が少人数でおじさんばかりだと指摘し女性や若い世代の意見反映を求めました。Eさんはまち歩きと自転車タクシーのためのポイントを探り商店街を含めた回遊ルートを熟考しました。Fさんは地域の文化財と語り部人材に光をあて分倍河原検定テストを提案しました。Gさんは特産物や地元産物の販売を南口商業施設の中で行うスペースを求めました。Hさんは商業施設の屋上に富士山展望コーナーの設置を主張しました。Iさんは分倍河原の歴史遺産をベースにしたまちづくりを語りました。
- ③ その他の記録すべき論議:「分倍河原の身の丈に合った」について志が低いのではないかと意見があったが、みんなが参加し自分たちの力で行なうという意味や、大規模開発ではなくゆるやかな新陳代謝という意味もあるという意見もあった。「個性的」には分倍の街の良さを引き出す意味と独りよがりにおおいるといった相反の意味が含まれている。「使いやすい」という中身は歩行者、自転車、自動車、健康者、障害者など使う立場で違う。狭い道、今のままを愛する人には不便さは気にならない。

2. 分倍河原のまちづくりビジョンと課題

(1) まちづくりビジョン

この報告書では分倍河原のまちづくりビジョンとして「小さくても光るまち」を掲げようとしています。勉強会での学習と議論を通じて私たちはまず、意見の中から抽出したスローガ的なビジョンを掲げ、そのもとで粘り強いとりくみを展開する必要性を認識しました。分倍河原の身の丈に合った個性的で使いやすいまちという考え方を併せて、多くの人と共有できるのではないかと考えるものです。

(2) 分倍河原の課題

① 駅舎の改善

分倍河原駅は残念ながら使いにくい危険とさえいえる状況が続いています。駅舎改善と南北自由通路の改善のために、大胆なアイデアも取り入れながら関係者の力を合わせた取り組みが急がれます。

② 北側駅前広場と再開発の課題

商店街と周辺地域の環境整備については再開発を含めた技術的な改善も視野に入れ、地区計画や共同建てで替え、町並みルールなどさらに手法研究を進めます。ヒューマンなスケールの町並みや街路に愛着を持つ意見も根強くあるため、まちづくりの真の要求把握を図ることにより、小さくても光るまちづくりを前進させたいと思います。

③ 道路の課題

道路については防災とサービスのための道路整備が求められています。具体的には駅東側商店街において緊急車両(パトカー、救急車)が迅速にUターンできる転回スペース、又は通り抜けのルート整備が必要です。歩行者の保護のために商店街へのサービス車両の時間制限も考察すべき手法です。駅



1976年(昭和51年)鎌倉街道から南口を見る



1976年(昭和51年)東芝社宅



西側住宅街においても緊急車両の転回と通り抜けを確保する必要があります。南口商業施設の開設によって交通量が増加すると周辺道路の対策議論が浮上すると思われます。

④ 地域の価値を光らせる課題

分倍河原には、地域の歴史と文化的遺産、水と緑の環境、買い物環境と魅力ある商店街振興、大手スーパーとの共存共栄策、交通渋滞と駅周辺に不足している駐車駐輪対策、公共交通の充実と歩いてもまわれる生活圏作り、多摩丘陵富士山眺望と景観の問題、地域の安全安心、居住環境の持続などの地域課題があります。これらが地域の価値を高め光らせる方向で解決整備される必要があります。

3. 今後の進め方

(1) 今後の取り組みの考え方

旧まちづくり協議会の提案から12年、市の施策には見るべき進展が示されなかったため結果として地元には取り残された思いが生まれてしまいました。私たちは旧協議会の報告書を学ぶ本勉強会や地域別まちづくり方針市民検討会への参加を通じてまちづくりの継続的な努力を認識しました。今後はまちづくり連絡会と商店会自治会の諸事業が「小さくても光るまち」に結実するよう努力することが基本的な考え方となります。

(2) 府中市のまちづくり施策との関係

府中市のまちづくりの指針は「第5次府中市総合計画(H14-H25)などの上位計画に則しつつ、平成14年に「府中市都市計画マスタープラン」の全体構想が策定され、現在は地域ごとの特性や課題に応じたまちづくりの方針を定めるための「地域別まちづくり方針市民検討会」が行なわれています。

平成19年3月から始まった市民検討会は本年とりまとめ作業に入っており、分倍河原駅周辺のまちづくりに関しては「JR南武線による地域の南北の分断を解消するためアクセスが容易になる基盤整備を行う」(駅北側については、再開発も視野に入れた技術的な商業地及び駅前空間の整備を検討する)といった整備方針が検討されています。

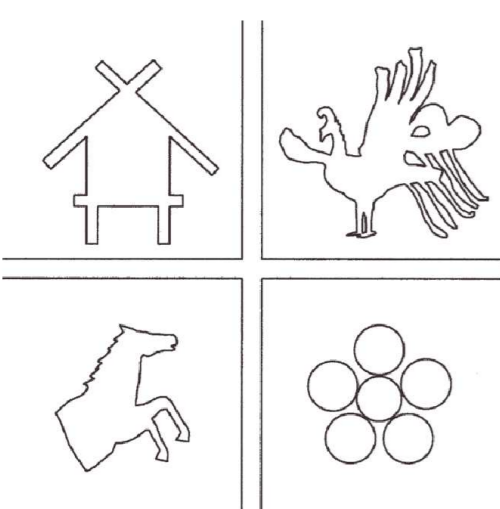
また、地区幹線道路の整備方針として駅南口を東西に貫通する府3・4・6号(府中国立線)について『多摩地域における都市計画道路の整備方針(第三次事業化計画)平成18年4月』において『優先整備路線』として位置づけされていないことから、周辺のまちづくりを含めた道路整備のあり方について検討する。」と記載されています。

さらに分倍河原駅周辺生活道路の整備方針として「駅周辺の利便性の向上を図るため、周辺の開発事業と連携した生活道路の整備を進める。」高安寺西側の「市道4-139号線については拡幅整備を行い、駅周辺の交通渋滞の緩和を図る。」とされています。

こうした方針に対して私たちは検討会の議論を尊重しながら必要に応じて地元からの意見発信を図りたいと思います。



2007年(平成19年)鎌倉街道から南口を見る



2011年(平成23年)鎌倉街道から南口を見る